

かとうせきかいらんぼん 可動堰回覧板

平成19年10月1日号 (No.27)
国土交通省北陸地方整備局
信濃川河川事務所大河津出張所
TEL 0256-97-2121
E-mail shinano@hrr.mlit.go.jp

回覧

10月から再開される可動堰本体工事や、工事で掘削する土砂の新たな運搬先などについて紹介します。

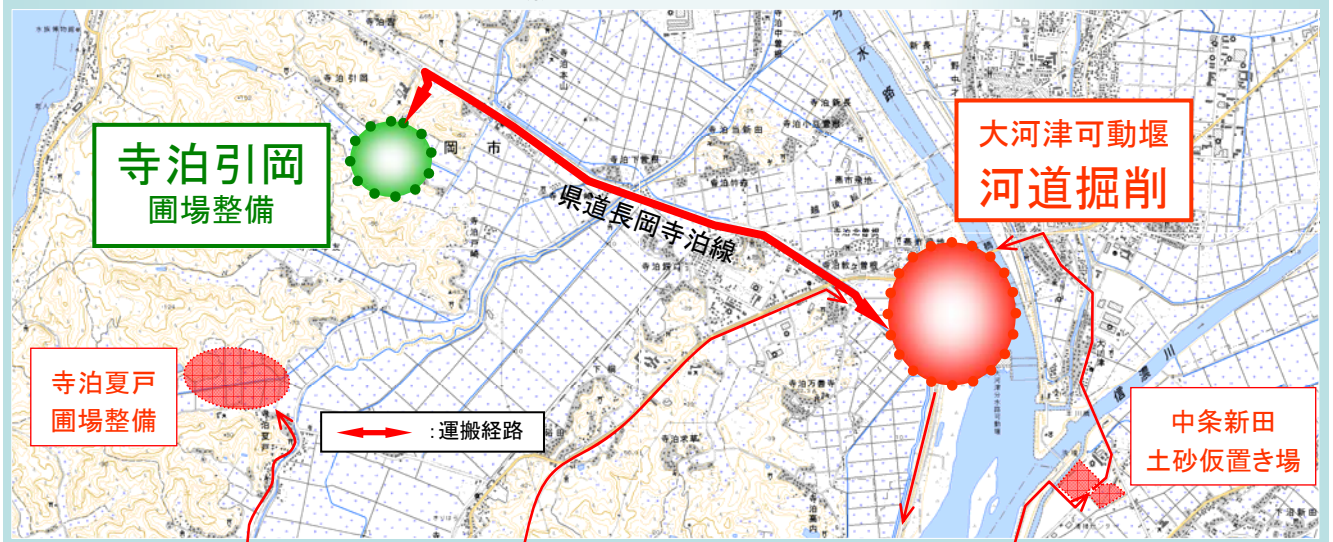
堰本体工事の再開について

可動堰の本体工事は、梅雨前線や台風などの大雨による洪水の被害を回避するため、7月から9月末までの間一時中断していましたが、10月1日より工事を再開します。6月までに堰本体を支えるための基礎となる杭の設置工事などが完了しており、今後は左岸側の堰柱2基、魚道などのコンクリート打設工事が本格的に始まり、徐々に新しい可動堰の姿が見えてくる予定です。



新しい土砂運搬先について

これまでの回覧板でもご紹介したように、大河津橋の左岸下流側で行っている河道掘削工事で掘削した土砂は、長岡市中条新田地先の土砂仮置き場及び長岡市寺泊夏戸地先の圃場整備箇所などに運搬しています。また、大河津橋の左岸上流側で遺跡調査を行っていた箇所においても、10月より河道掘削工事を開始します。掘削した土砂は、10月以降は新たに長岡市寺泊引岡地先の圃場整備箇所へも運搬します。(土砂の運搬経路、運搬箇所は下の図をご参照下さい)土砂運搬に伴いダンプトラックの台数が増えるため、沿線の皆様にはご迷惑をお掛けしますが、安全優先で工事を行いますので、ご協力をお願いいたします。



五千石遺跡見学会が開催されました

9月8日(土)に長岡市・燕市の主催により、五千石遺跡見学会が開催されました。

台風9号の影響で、前日まで河川の水位が上昇しており開催が危ぶまれましたが、幸い当日は雨も上がり、現場への影響もなく無事に開催することができました。

参加者266名は、遺跡調査現場事務所で土器や勾玉(まがたま)などの発掘された出土品を見学した後、大河津分水路内で実施している可動堰改築の工事現場及び遺跡発掘現場を見学しました。遺跡発掘現場では、古墳時代後期の集落跡や水路跡など普段見ることの出来ない現場を興味深く見学されていました。



遺跡発掘現場の見学



出土品「高さ70cm直径約65cmの大きな”かめ”」



可動堰工事現場の見学

資料館からイベントのお知らせ

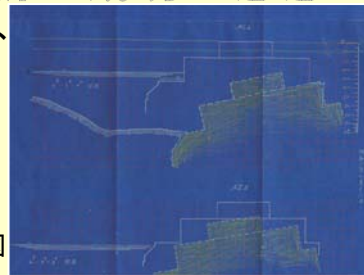
企画展 **日本で初めて最後の自在堰** —100年の大計 挫折と成功と恩恵—

1907年「大河津分水工事」着工、1922年「大河津分水路」通水、1927年「自在堰」陥没、1931年「可動堰」完成、そして今もなお私たちの暮らしを守り続ける大河津分水。100年のあゆみを設計図とともにご紹介します。

期間:10月6日(土)~11月25日(日)

会場:信濃川大河津資料館

陥没した自在堰の測量図



講座 **鮭のものがたり**

日本一の母なる大河「信濃川」。大河津分水路では、今年も9月中旬頃からサケが上り始めています。なぜ生まれた川に帰ってくるのか、どのくらいのサケが帰ってくるのか。サケに関する色々なお話を専門家から直接聴くことができる講演会と現地観察会です。

日時:10月20日(土)14:00~16:00

会場:信濃川大河津資料館2F多目的ホール

定員:50名

講師:新潟県内水面水産試験場の方



講座の申し込みは資料館まで連絡してね!



大河津分水に帰ってきた鮭。
体長:約70cm
(平成18年9月27日撮影)

『可動堰なんでも電話』を開設し、みなさんからのご意見・ご質問などをお待ちしております。
0258-32-3134 (平日 AM9:00~PM4:00)

工事や河川に関することはなんでも大河津出張所へ Tel 0256-97-2121(建設監督官在所)
大河津出張所 :大河津分水全般に関する工事監督・維持管理等
建設監督官(可動堰改築担当):大河津可動堰改築事業に関する工事監督等

信濃川河川事務所

<http://www.hrr.mlit.go.jp/shinano/>

可動堰情報館

<http://www.hrr.mlit.go.jp/shinano/kadouzeki/>

信濃川大河津資料館

<http://www.hrr.mlit.go.jp/shinano/ohkouzu/index.html>